

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	熊本大学
設置者名	国立大学法人熊本大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	総合人間学科	夜・通信		4 6	2 4	1 2 2	1 3	
	歴史学科	夜・通信			2 4	1 2 2		
	文学科	夜・通信			—	9 8		
	コミュニケーション情報学科	夜・通信			1 6	1 1 4		
教育学部	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 小学校専攻	夜・通信	5 2	5	1 1	6 8	1 3	
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 国語専攻	夜・通信			8	6 5		
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 社会専攻	夜・通信			4	6 1		
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 数学専攻	夜・通信			—	5 7		
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 理科専攻	夜・通信			1	5 8		
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 英語専攻	夜・通信			6	6 3		
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 実技系専攻（音楽）	夜・通信			1 0	6 7		
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 実技系専攻（美術）	夜・通信			0	5 7		

教育学部	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 実技系専攻（保健体育）	夜・ 通信	5 2	5	—	5 7	1 3	
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 実技系専攻（技術）	夜・ 通信			6	6 3		
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース 実技系専攻（家庭）	夜・ 通信			6	6 3		
	学校教育教員養成課程 特別支援教育コース	夜・ 通信			9	6 6		
	学校教育教員養成課程 養護教育コース	夜・ 通信			1 6	7 3		
	小学校教員養成課程	夜・ 通信		4	7	6 3		
	中学校教員養成課程 （国語）	夜・ 通信			9	6 5		
	中学校教員養成課程 （社会）	夜・ 通信			6	6 2		
	中学校教員養成課程 （数学）	夜・ 通信			—	5 6		
	中学校教員養成課程 （理科）	夜・ 通信			2	5 8		
	中学校教員養成課程 （音楽）	夜・ 通信			1 2	6 8		
	中学校教員養成課程 （美術）	夜・ 通信			—	5 6		
	中学校教員養成課程 （保健体育）	夜・ 通信			—	5 6		
	中学校教員養成課程 （技術）	夜・ 通信			2	5 8		
	中学校教員養成課程 （家庭）	夜・ 通信			5	6 1		
	中学校教員養成課程 （英語）	夜・ 通信			4	6 0		
	特別支援教育教員 養成課程	夜・ 通信			6	6 2		
	養護教諭養成課程	夜・ 通信			1 8	7 4		
法学部	法学科	夜・ 通信		2 8	—	8 0	1 3	
理学部	理学科 数学コース	夜・ 通信		5	—	5 7	1 3	
	理学科 物理学コース	夜・ 通信			—	5 7		
	理学科 化学コース	夜・ 通信			7	6 4		
	理学科 地球環境科学コース	夜・ 通信			8	6 5		

	理学科 生物学コース	夜・ 通信	5 2	5	1 0	6 7	1 3	
医学部	医学科	夜・ 通信		—	153.5	205.5	1 9	
	保健学科 看護学専攻	夜・ 通信		9	9 2	1 5 3	1 3	
	保健学科 放射線技術科学専攻	夜・ 通信			4 8	1 0 9		
	保健学科 検査技術科学専攻	夜・ 通信			3 6	9 7		
	薬学部	薬学科		夜・ 通信	—	5 1	1 0 3	1 9
創薬・生命薬科学科		夜・ 通信		1 2		6 4	1 3	
工学部	土木建築学科	夜・ 通信		4	3 0	8 6	1 3	
	機械数理工学科	夜・ 通信			2	5 8		
	情報電気工学科	夜・ 通信			8	6 4		
	材料・応用化学科	夜・ 通信			4	6 0		
	半導体デバイス工学 課程	夜・ 通信			6	6 2		
情報融合 学環	DS 総合コース	夜・ 通信		—	—	5 2	1 3	
	DS 半導体コース	夜・ 通信			—	5 2		
(備考)								
以下の課程は、教育課程が変更途上である。								
以下の課程は 2024 年度新設である 【情報融合学環】は 1、2 年次のみ								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

下記の WEB シラバスより、項目「実務経験を活かした授業」において「該当」を選択して「検索」
<https://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	熊本大学
設置者名	国立大学法人熊本大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/yakusyokuin
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文部科学省研究振興局 大学研究基盤整備課長	2023.9.1～ 2025.8.31	総務・財務・施設
非常勤	国立大学法人熊本大学 参与 熊本県公安委員会委員 熊本県立美術館参与	2023.8.1～ 2025.7.31	広報・ブランディング ・行政連携
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	熊本大学
設置者名	国立大学法人熊本大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

・授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等を入力でき、Learning Management System(LMS)とも連動するシラバスシステムを構築し、全学的に授業計画を前年度末までに作成、学内外からアクセス可能な Web サイトにおいて 4 月から公表している。

・全学部において、「学生が見て分かりやすいか」を念頭に、「授業の目的」、「到達目標」、「各回の授業内容と事前・事後学修」に主眼をおいたシラバスチェックを行い、全学の FD 委員会に実施報告書を提出することとしており、前年度のチェック結果を翌年度のシラバス作成に反映させることで、継続的なシラバスの改善に努め、本学の教育の質の向上に資している。

授業計画書の公表方法

Web サイト
https://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

全学を通しての厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について、以下の通り定め、学内外からアクセス可能な Web サイトにて公表している。

○厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について

https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken

特に、成績評価の区分及び公表については以下の通り（一部抜粋）

○成績評価の区分

(1) 成績評価は、学生の授業における学修目標に応じ、以下の表に示す 5 段階による評価区分にて表示する。ただし、授業形態（演習・実習等）、科目の特性（インターンシップ等）などにより 5 段階評価が困難な場合には、柔軟な評価区分を行うことができるものとする（例：合格・不合格）。

合格	秀	100 点～90 点	学生が授業内容を超えて、より主体的に学修したことが認められる卓越したレベル
	優	89 点～80 点	学生が授業内容の学修を終えた時に身に付けていることが期待される知識・技能等（学修目標 A 水準）を十分に修得したことが認められるレベル
	良	79 点～70 点	学修目標 C 水準を十分に上回っているが、学修目標 A 水準への到達に向けてさらなる努力を必要とするレベル

合格	可	69 点～60 点	学生が授業内容の学修を終えた時に最低限身に付けていることが必要な知識・技能等（学修目標 C 水準）を修得したことが認められるレベル
不合格	不可	59 点～ 0 点	学生が授業内容の学修を終えた時に最低限身に付けていることが必要な知識・技能等（学修目標 C 水準）を修得したことが認められないレベル

(2) 秀・優・良・可の区分については、成績分布の著しい偏在に留意するものとする。特に秀・優については、合わせて 30%以内を目安とし、厳格で客観的・公正な成績評価に努めるものとする。

(3) 共通科目・同一名称科目（語学・理系基礎科目等）の成績評価の基準・方法については、担当教員間で十分に協議をして設定するものとする。

(4) 各学部等（大学教育統括管理運営機構を含む。以下同じ。）において成績評価の区分を別に定める場合には、学生に対してあらかじめ明示の上、その定めによるものとする。

○成績評価方法の公表

(1) 成績評価の基準・方法については、年度当初に授業計画書で公表するものとする。

(2) 期末試験だけによる評価でなく、小テスト、レポート、ディスカッション、授業への参加度等も含めた総合評価に努め、評価要素ごとに評価割合を明示する（例：試験 80%、ディスカッション 20%）。

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

○GPA の算定について

<http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/activity/images/GPA.pdf>

- 全学共通の GPA の算定方法を定め、当該方法に従って算出した GPA を学修成果可視化システムにより学生、教員が把握できる仕組みを構築している。
- 全学の FD 委員会において、学期毎に成績の分布状況の分析を行い、各学部分析結果をフィードバックしている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	Web サイト http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/activity/images/GPA.pdf
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

以下のとおり、全学及び各学部における卒業の認定に関する方針を定め、学内外からアクセス可能な Web サイトで公表し、適切に実施している。

○ 熊本大学の教育目標に鑑み、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身に付けた者に学士の学位を授与します。

- 深い教養と高い専門性を基に我が国や国際社会の発展に貢献（寄与）するための論理的な思考ができる。
- 多様な文化や価値観を持った人々と知性的なコミュニケーションを取ることができる。
- 社会情勢の変化を理性的に察知し、社会の抱える課題解決に自らの専門力を応用できる。

卒業の認定に関する方針の公表方法	Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum
------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	熊本大学
設置者名	国立大学法人熊本大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/zaimu/zaimu
収支計算書又は損益計算書	https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/zaimu/zaimu
財産目録	対象外
事業報告書	https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/zaimu/zaimu
監事による監査報告(書)	https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/zaimu/zaimu

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:第4期中期計画	対象年度:R4年度~R9年度)	
公表方法:		
https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/mokuhyou_keikaku		

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki)
(概要) 文学部は、豊かな教養と人文・社会科学に関する深い専門的知識を有し、創造的知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代社会に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、もって社会に貢献できる人材を育成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/01bunR7-2025-04-01.pdf)
(概要) 文学部は、学士課程教育において、「幅広く豊かな教養と人文・社会科学に関する確かな専門的知識を有し、創造的な知性を持って自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び21世紀を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、社会に貢献できる」人材の育成を目標としています。このことを踏まえ、教養教育にて修得する幅広い分野の知識を素地とし、各学科において修得する分野の特性に応じた知識・能力に基づいて本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を取得した人に学士(文学)の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/01bunR7-2025-04-01.pdf)
(概要) 文学部は、現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材、情報コミュニケーションのエキスパート兼リーダーを養成するために、各学科・コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成しています。1・2年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに各学問領域の基礎的専門科目を配置し、3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成しています。 そのため、各学科・コースが挙げる体系性、段階性、個別化(進路への対応)をもとにカリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：Web サイト

https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/01bunR7-2025-04-01.pdf (概要) 文学部では次のような人を求めます。 1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。 2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、情報コミュニケーションのあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。 3. 専門的知識の習得に意欲を持ち、習得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

学部等名 教育学部 教育研究上の目的 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki)
(概要) 教育学部は、広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員の養成と地域社会における生涯学習等の指導者の養成のため、教員や地域社会の指導者として必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/02kyouikuR6-2023-12.pdf)
(概要) 教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成する」ことを目的としています。 教育学部では、このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、教養教育では幅広い分野の知識、各コース・専攻では分野の特性に応じた知識・能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身に付けた者に、学士の学位を授与します。 ・発達途上にある子どもたちを専門的立場から理解し、実践的に指導することができる。 ・現代的教育課題に関する専門的知識をもとに、課題を分析し解決することができる。 ・教育上の諸問題を広い視野で多面的に捉え、協働しながら解決していくためのコミュニケーションができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/02kyouikuR6-2023-12.pdf)
(概要) 教育学部は、学士課程教育において、「広い視野と深い教養を持った豊かな人間性を基盤とした教員及び教育関係職員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成すること」を目的としています。このことを踏まえ、各教育課程では、以下の方針に基づき教育カリキュラムを編成しています。 ・教員等に求められる資質能力を高めるために、教養教育では豊かな人間性の基盤となる広い視野と深い教養を身に付け、教職に関する科目、教科に関する科目等から総合的に学修することができる。 ・各コース・専攻・専修・教科ごとに、専門的内容について体系的、段階的、個別的にバランスよく学修することができる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/02kyouikuR6-2023-12.pdf)

(概要) 教育学部では、広い視野と深い教養を持った豊かな人間性を基盤とした教員の養成のため、必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探求能力を育成することを目的としています。このことを踏まえ、次のような人を広く求めます。 1. 教員を目指す強い意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的に取り組むことができる人 2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人 3. 子どもの教育と社会的活動に幅広い興味と関心を有する人 4. 必要なコミュニケーション能力と協調性を備えている人 5. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法: Web サイト) https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki
(概要) 法学部は、法的及び政策的知識を基盤として、社会に生起する具体的問題を解決しうる基礎的能力を育成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: Web サイト) https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/03houR7-2025-02-05.pdf
(概要) 法学部は、学士課程教育において、法的にまたは政策的に「考える力」、「表現する力」、「議論する力」を用いて、社会に生起する具体的問題を解決しうる基礎的能力を有する人材の育成を目的としています。 法学部では、編成実施される教育課程において、このような人材育成目標に基づいて、次の1に掲げる資質及び能力等を教養教育や専門教育を通じて修得していることを、2に示す方法で確認し、卒業の認定を行い、学士の学位を授与します。 1. (1) 幅広い視野と批判的思考力と総合的判断力を持ち、人間と社会と自然に関して深く理解する豊かな教養を身に付けていること。 (2) 法学・政策学の基本的理論・概念について説明し、国際的・地域的見地から紛争の予防・解決に必要な法学・政策学の研究手法を使用することができる確かな専門性を身に付けていること。 (3) 現実の社会に生起する問題を法学・政策的な考え方をを用いて見出し、解決方法を提示することができる創造的知性を身に付けていること。 (4) 紛争を法的・政策的に、交渉などを通して、予防し、解決できる社会的な実践力を身に付けていること。 (5) 国際化に対応しうるコミュニケーション能力や外国語の運用能力を持ちグローバルな視野を身に付けていること。 (6) 情報技術を使用して、情報の収集・分析や発信を行うことができる情報通信技術の活用力を身に付けていること。 (7) 法学・政策的な考え方の社会的意味と限界を認識した上で、法学・政策学の手法を用いた問題解決方法を一般的に理解しやすく企画、立案、形成することができる能力を身に付けていること。 (8) アドバンスト・リーダー・コース（法学特修クラス、地域公共人材クラス、グローバルリーダー・クラス）では、上記（1）から（7）に加えて、国際的・地域的見地から、紛争の予防・解決に必要な法学・政策学の考え方をを用いて交渉などを通じた具体的解決方法を提示することができること。 (9) 法学特修クラスを修了する学生は、上記（1）から（8）に加え、法的思考を用い

て事例問題を解決する力を涵養すること。法学特修クラスに設けられる法曹プログラムでは、これに加えて法科大学院受験及び法科大学院進学後の学修に耐えうる学力を身に付けていること。 (10) 地域公共人材クラスを修了する学生は、上記(1)から(8)に加え、「地域」に関する深い問題意識とその解決を志向する姿勢を持ち、法的及び政策的に考え、表現し、議論する基礎的能力を身に付け、地域社会で生じる様々な問題・紛争の解決に向けて主体的に行動できる資質を身に付けていること。 (11) グローバルリーダー・クラスを修了する学生は、上記(1)から(8)に加え、多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身に付け、国内外における地域の課題をグローバルな視点で考え果敢に行動できる資質を身に付けていること。 2. (1) 4年(第3年次編入者は2年)以上在学し、教養科目及び専門科目を履修して、所定の単位を修得したものに、卒業を認定し、本学の学位を授与します。なお、アドバンスト・リーダー・コースに所属し、所定の教育プログラムの卒業要件を満たし、大学院に合格した者には、3年の在学を以て卒業を認定し 学士の学位を授与することがあります。 (2) 教養科目については、基礎科目(必修外国語、情報基礎科目、肥後熊本学、自由選択外国語等)、リベラルアーツ科目、現代教養科目、キャリア科目、開放科目等から、それぞれ所定の単位を修得したことを要件とし、人間と社会と自然に関する幅広い教養に裏打ちされた批判的思考力と総合的判断力の基礎が形成されていることを確認します。 (3) 専門科目については、必修科目、選択必修科目(法学、政治学・経済学、交渉紛争解決学分野)、選択科目から、所定の単位を修得したことを要件とし、法的にまたは政策的に「考える力」、「表現する力」、「議論する力」を用いて、社会に生起する具体的問題を解決しうる基礎的能力を身に付けていることを確認します。	教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/03houR7-2025-02-05.pdf) (概要) 法学部は、法的ないし政策的に「考える力」・「表現する力」・「議論する力」、法と政策の双方向から現実の社会に生起する問題に対応しうる基礎的能力、法的な考え方と政策的な考え方の基本を理解した上で、法的思考や政策的思考の社会的な役割と限界を認識する力、幅広い視野と総合的判断力をもって法的ないし政策的な考え方それ自体を批判的に認識する能力の育成を教育目標としています。 入学者の受入れに関する方針 (公表方法: Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/03houR7-2025-02-05.pdf) (概要) 法学部は、次のような能力・資質をもった人を求めています。 1. 法学・政治学・経済学を学ぶ上で必要となる中等教育についての幅広い基礎学力をもっている人。 2. 他者・社会・公共への関心をもち、他人の異なった意見に謙虚に耳を傾ける人。 3. 自分の頭で柔軟かつ論理的にものを考え、率直に議論・対話できる人。 4. 公正・公平を追求する心、地域的及び国際的な感覚をもっている人。 5. 社会や公共、とりわけ自らが生まれ育ち又は生活する地域社会における諸問題に対して、広範な知見の収集、他者との議論や対話を通じて解決策の提示を行う意欲のある人。 法学部では幅広い基礎学力に関して、以下のように考えています。 法学部は、法的ないし政策的に「考える力」・「表現する力」・「議論する力」、法と
--	--

政策の双方向から現実の社会に生起する問題に対応しうる基礎的能力、法的な考え方と政策的な考え方の基本を理解した上で、法的思考や政策的思考の社会的な役割と限界を認識する力、幅広い視野と総合的判断力をもって法的ないし政策的な考え方それ自体を批判的に認識する能力の育成を教育目標としています。法学部では、そのために必要な基礎学力（知識・技能）と、それを発展させることのできる思考力、判断力、表現力、そして、法学・政治学・経済学について主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度が求められます。さらに、アドミッション・ポリシーに示した能力と資質を備えていることが強く期待されます。

学部等名 理学部
教育研究上の目的 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki ）
（概要） 理学部は、一学科制の特色を活かして、自然科学に対する幅広い知識と理解、および、豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材を養成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05rigakuR7-2024-07.pdf ）
（概要） 理学部は、自然科学に対する幅広い知識と理解及び豊かな創造性と国際性を持ち、深い教養と課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献する能力を持つ人材の育成を教育目的としています。 この目的を達成するため、主に1、2年次では、教養教育及び理学科一学科制の下で幅広い分野にわたる学部 共通教育を実施します。3年次以降では、各コースにおいてそれぞれの分野の特性を活かした専門教育を実施します。 各コースでは、自然科学の特定分野への深い専門性を持ち、得られた真理を簡潔かつ多彩に表現できる人材の育成を目指しています。各コースにおける到達目標として求められる能力等を以下に示します。本学部が定める 教育課程のもとに所定の単位数を修得し、これらの目標を達成したと認められた者に、学士（理学）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05rigakuR7-2024-07.pdf ）
（概要） 理学部理学科のディプロマ・ポリシーを踏まえて、次のような人材の育成を目指しています。 1. 自然科学に関して広くバランスのとれた知識や思考法及び実験・観察の技能を身につけた有能な人材 2. 国際社会における新しいさまざまな課題に積極的に立ち向かうことのできる人材 3. 高い学修意欲を持って理学におけるスペシャリストをめざす人材 そのため、以下に挙げる体系性、段階性、個別化（進路への対応）をもとにカリキュラムを編成しています。 体系性：自然科学に対する幅広い知識と理解を修得するための1・2年次（学士前期）共通カリキュラムを基盤に、特定分野における深い専門性を会得するための各分野（コース）固有の学問体系に基づくカリキュラムを編成しています。教養教育においては、英語及び情報科目の学修を義務づけると共に、理系基礎科目の履修によって理学全般についての基礎的素養を身につけます。加えて、教養教育選択科目において、理系基礎科目では学修しない内容を含む幅広い科目の学修の推奨を通じて、より深く、豊かな教養の涵養につながるカリキュラムとしています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って発展的な科目を学修するよう編成しています。また、人間力、コミュニケーション能力、自己管理能力、倫理観を身に付けることを目的とした、「教養科目」、「外国語科目」、「情報科目」などは1・2年次に履修し、3年次以降の各分野での専門教育の礎になるようにしています。 個別化（進路への対応）：学年に従い学修を深化させるように、授業科目を配置し、個々の履修コースの目的である将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。豊かな創造性や課題探求能力の涵養のため、実験や実習、演習など能動的な授業を重視します。更に、国際性や表現力なども含め、人材育成の質保証のために卒業研究を必修としています。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05rigakuR7-2024-07.pdf）
（概要） 理学部では数学と理科の各分野について幅広い興味と理解を有し、自然科学の諸課題に対し意欲的にチャレンジでき、多角的な視点から忍耐強く真理の探究ができる次のような人を求めています。 1. 物事の本質を見極めたいという強い意志を持った人 2. 論理的思考ができる人 3. 豊かな感性と洞察力を有する人 4. 野外調査や長時間に及ぶ実験等に対し、忍耐強く取り組める人 5. 広い視野をもち、応用力、実践力のある人 6. 理学研究の発展に貢献したいという意志をもった人 7. 複数の学問にまたがる学問領域にも失敗を恐れず果敢に挑戦できる人 8. 国際的に活躍する意欲のある人
学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki）
（概要） 医学科は、医学及び関連領域における社会的な使命を強い倫理観をもって達成するために必要な科学的で独創性に富む思考力と人間性とを涵養させつつ、医師として必要な基本的知識、技量を修得させ、生涯にわたって自己研鑽を積むことのできる人材を育成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05igakuR7-2025-04-01.pdf）
（概要） 熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、「熊本大学医学部医学科学修成果」を定めています。教養教育で身に付けた幅広い分野の知識を素地とし、別に定める熊本大学学士課程教育修了時に獲得が期待される「学修成果」に加え、7つのコア学修成果（大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医科学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療と社会貢献）とそれぞれの下位に属する総計50の学修成果（小項目）を獲得するために編成された教育課程を学修し所定の単位を取得、これら学修成果を獲得した者に学士（医学）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05igakuR7-2025-04-01.pdf）

(概要) 熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、医学科学生が卒業する際に獲得しているべき能力を明文化した「熊本大学医学部医学科学修成果」を定めています。これは、7つのコア学修成果（大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医科学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療と社会貢献）と、それぞれの下位に属する総計50の学修成果（小項目）からなります。医学科ではこれら学修成果を学年進行に応じて段階的に学修し、卒業時にはすべての学修成果を獲得できているようにカリキュラムを編成しています。 体系性：学修成果を獲得するため、各分野の学問体系に従った教育課程をバランスよく編成しています。 段階性：教養教育では幅広い分野を学び、学年進行に従って段階的に学修成果を獲得できるよう編成しています。 個別化（進路への対応）：学修成果を獲得することにより、臨床医だけでなく医学研究者や医療行政担当者まで、様々な進路に対応できるようになっています。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05igakuR7-2025-04-01.pdf)
(概要) 熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。 1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人 2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人 3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人 4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人 5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人 6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学修を継続できる人 7. 医学と医療以外の幅広い分野にも興味を持ち、継続的に教養を深める意欲に溢れる人
学部等名 医学部保健学科
教育研究上の目的 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki)
(概要) 保健学科は、生命や人間の尊厳に基づく心豊かな教養及び高度な専門的知識・技術を備え、チーム医療のスタッフとして活動し、地域や国際社会に貢献できる資質の高い医療技術者・研究者・教育者を育成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05igakuR7-2025-04-01.pdf)
(概要) 保健学科は、学士課程において、「命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観及び確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に即応して、チーム医療に対応できる医療人、ならびに社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人の育成」を目的としています。 このことを踏まえ、教養教育にて修得する幅広い分野の知識を素地とし、各専攻において修得する分野の特性に応じた知識・能力に基づいて各専攻が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、医療従事者、教育・研究者として必要とする専門

分野において所定の単位と資質を取得した者に学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05igakuR7-2025-04-01.pdf) (概要) 保健学科は、学士課程の目的である「命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観及び確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に即応して、チーム医療に対応できる医療人、ならびに社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人の育成」を達成し、ディプロマ・ポリシーで求める学修成果を修得するために、以下の方針に基づき教育カリキュラムを編成しています。 1. 体系的性 ・ 各分野の学問体系を基盤とし、国家資格取得に必要とする科目群をバランスよく学修できるように教育課程を編成しています。 2. 段階性 ・ 教養教育及び基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って応用的・発展的ならびに実務的な科目を学習できるよう編成しています。 3. 個別化（進路への対応） ・ 各年次に各専攻分野を構成する専門的な授業科目を置き、将来の進路に則した科目履修を保証するように編成しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/05igakuR7-2025-04-01.pdf) (概要) 保健学（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）の発展を担い、広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために、保健学科では保健学科の求める学生像を踏まえ、次のような人を求めています。 1. 看護職（看護師、保健師、助産師）並びに診療放射線技師、臨床検査技師という職業に魅力を感じ、専門 分野において地域貢献するとともに、国際的な広い視野で物事を考え、活躍する意欲と熱意のある人 2. 人間に対する尊厳の念を持ち、多様な価値観を受け入れる寛容さと優れた協調性を備えた人間性豊かな人 で、医療における高い倫理観とマナーを育んでいける資質を持った人 3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で、国語、外国語とともに2科目以上の理科（生物、化学、物理）において優れた学力を有する人 4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動、ボランティア活動等の経験を有し、様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人 5. 専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び、実験や臨地実習においても真摯な態度で自らの課題を 設定して問題解決し、新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人 6. 協調性に富み、チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き、専門分野における役割・ 機能の責務を果たし、指導的役割を担える資質を有する人 7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え、学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め、 指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

学部等名 薬学部
教育研究上の目的 (公表方法: Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki)
(概要) 薬学部は、「薬学は医療を通じて人類の健康に貢献する総合科学である」との理念の下に、薬剤師の職能及び医薬品の創製・保健衛生にかかわる基本知識を修得させるとともに、生命科学を基盤とする高度の“薬学的”思考力と倫理観を備えた創造性豊かな人材を育成することを目的としています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/07yakuR7_2024-06-01.pdf)
(概要) 薬学部は、「薬学は医療を通じて人類の健康に貢献する総合科学である」との理念の下に、教養教育で身に付けた幅広い分野の知識を素地とし、専門教育において薬剤師の職能、医薬品の創製・保健衛生に関わる基本知識、及び生命科学を基盤とする高度の“薬学的”思考力と倫理観を身に付け、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を取得した者に本学部の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/07yakuR7_2024-06-01.pdf)
(概要) 学生がディプロマ・ポリシーに掲げた目標に到達するため、以下の方針によりカリキュラムを編成します。
<u>①教育課程の編成方針</u> 教養教育では多様な分野にふれ、より深く豊かな教養を身に付けることができるように幅広い科目を活用し専門教育で学ばない領域の履修を推奨します。専門教育では、低学年次で基礎科学的科目を学修し、徐々に薬学的応用科目へと遷移し、高学年次では高度な薬学的実践科目が学修できるように編成しています。さらに、3 年次より研究室配属を行い、個々の特性に応じた高度な学修が可能です。
<u>②教育課程における教育・学習方法に関する方針</u> 教育目標への到達に適した学修方法として、アクティブラーニング、スモールグループディスカッション、オンライン学習を取り入れた講義、演習や実習、研究室における長期課題研究等を行います。講義においては知識の理解と定着を行い、演習や実習では知識の活用と主体的な思考力を涵養します。研究室における研究では論理的思考力を向上させるとともに課題解決能力及び研究の実践力を身に付けます。
<u>③学修成果の評価の方針</u> カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。 全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知します。学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により厳格かつ公正に評価します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/07yakuR7_2024-06-01.pdf)

(概要) 薬学部では、“薬学は医薬を通して人類の健康に貢献する総合科学である”との理念のもと、医薬品の創製・生産・管理、環境・保健衛生及び薬剤師の職務等に関わる基礎知識を習得させ、生命科学を基礎とする高度な創薬・育薬研究能力と倫理観を備えた創造性豊かな人材を育成することを目指しています。将来の薬学を担う人材を育成するため、本学部では次のような人を求めています。 1. “くすり”に関わる職業に魅力を感じ、自らその仕事に携わりたいという希望や意欲を有する人 2. 困難を克服する精神力や生命に対する倫理観、マナーを育んでいける人 3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、その上で、化学、物理、生物の一つあるいは複数の科目において特に優れた力を有する人 4. 情報収集、情報発信、コミュニケーションの手段としての情報科学や外国語能力の向上のための努力を持続できる人 5. 高等学校までにクラブ活動、生徒会活動及びボランティア活動など様々な活動に参加したり、あるいは自らの目標や考えの基に何かに取り組んだり、趣味を楽しんだりした経験を有する人 6. 学部卒業後は、薬学の様々な領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法：Web サイト) https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki
(概要) 工学部は、社会と科学技術の関わりについての幅広い見識と豊かな専門知識を備え、人間社会と地球環境との共生の実現を指向しながら、社会の持続的発展を技術面から支える、人間性豊かな人材の育成を目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：Web サイト) https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/08kou-2025-04-01.pdf
(概要) 工学部は、学士課程教育において、社会と科学技術の関わりについての幅広い見識と豊かな専門知識を備え、人間社会と地球環境との共生の実現を指向しながら、社会の持続的発展を技術面から支える、人間性豊かで、グローバル社会で活躍する人材の育成を目的としています。このことを踏まえ、教養教育にて修得する幅広い分野の知識を素地とし、各学科において修得する分野の特性に応じた知識・能力に基づいて本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育プログラムを学修し、所定の単位を取得した者に、本学部の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト) https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/08kou-2025-04-01.pdf
(概要) 工学部は、分野別の学修目標を備えた国際的に通用する教育プログラムを用意し、教養教育では多様な分野にふれ、より深く豊かな教養を身に付けることができるように幅広い科目を活用し専門教育で学ばない領域の科目を履修し、1年次に工学部共通の工学基礎科目、学科共通の最も基礎的な学科基盤科目を配置して基礎教育を終えた後に、2年次から専門分野へ配属し、高学年でそれぞれの専門分野の専門科目を体系的に学ぶことにより、社会に貢献できる技術者・教育者・研究者を育成します。そのため、以下に挙げる体系的、段階性、個別化（進路への対応）をもとにカリキュラムを編成しています。 体系的：工学部の学位授与方針に基づく国際的に通用する教育プログラムのもと、体系的に学修できるカリキュラムを編成しています。

段階性：学年進行に沿って基礎的な科目から応用的・発展的な科目を段階的に学修できるカリキュラムを編成しています。 個別化（進路への対応）：分野別学修目標に沿った基礎から応用までの豊富な専門科目を提供することにより、各自の幅広い選択に対応した学修ができ、進学、就職のいずれの進路にも対応できるカリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/08kou-2025-04-01.pdf） （概要） 工学部は、優れた資質や能力、高度な専門性を備えた技術者及び研究者を養成するとともに、高度な科学技術の提供により人類の福祉と文化の進展、自然との共生に寄与します。あわせて、工学研究の推進や先端科学 技術の開発によって工学の進歩、地域・産業界の発展に貢献することを目指しています。このため、工学部では次のような人を求めます。 1. 明確な目標を持って主体的に考え、自ら行動できる人 2. 工学を学習するのに必要な基礎学力（特に、数学、理科）を持っている人 3. 社会性やコミュニケーション能力を備えている人 4. 人類の幸福・福祉や自然との共生に関心を持っている人 5. グローバル社会で活躍する意欲を持っている人 6. ものづくりに関心を持っている人

学部等名 情報融合学環
教育研究上の目的 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki） （概要） 数理・データサイエンスの知識と課題に取り組むための基本的技能、地域課題に取り組むためのデータ収集能力、統計的な視点からデータを分析解釈できる技能、第二創業を含めたアントレプレナーに挑むために必要な経営・知財管理などの基本的知識、イノベーションを起こすための発想力を高めるための経験、社会で求められる英語力を含めたコミュニケーション能力を修得した人材の育成を目的としています。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/26gakkanR6-2023-11-07.pdf） （概要） 情報融合学環では、数理・データサイエンスの知識と課題に取り組むための基本的技能、地域課題に取り組むためのデータ収集能力、統計的な視点からデータを分析解釈できる技能、第二創業を含めたアントレプレナーに挑むために必要な経営・知財管理などの基礎的知識、イノベーションを起こすための発想力を高めるための経験、社会で求められる英語力を含めたコミュニケーション能力を修得した人材の育成を目的としています。このことを踏まえ、教養教育にて修得する幅広い分野の知識を素地とし、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施される各コースの教育プログラムを学修し、所定の単位を修得した者に、学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/26gakkanR6-2023-11-07.pdf）

(概要)

○DS 総合コース

数学、統計学、情報科学など数理・データサイエンス・AI の知識・能力の基礎となる自然科学や社会科学に関する学問を十分に修得させることで、基礎学問の知識を応用して、データ駆動型社会において国際的なリーダーとなるデータサイエンティストを育成することを目指しています。更に、日本語による論理的な記述、発表、討論などのコミュニケーション能力及び国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、社会や技術の変化に柔軟に対応して継続的に学修できる能力、及び DX にかかわる技術が社会や環境に及ぼす影響を予測し、技術者倫理や自然環境などを考慮して行動する能力を有する人材の養成のためのカリキュラム編成となっています。

体系性：教養教育に加えて、数学、統計学、情報科学などの基礎科目群と専門科目群をもうけ、データサイエンス的素養が身に付くように編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するように編成しています。1 年次の全学生共通の基盤科目として、データサイエンス (DS) 入門や DS リテラシー、プレゼンテーション実習等の科目を編成し、データサイエンスを含めた基礎的知識の涵養を目指します。

個別化（進路への対応）：確率・統計等の数理基礎科目、アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ等のプログラミング教育科目、データ分析Ⅰ・Ⅱ等データ収集分析関係科目、コンピュータネットワーク・情報セキュリティ関係科目、さらにはメディア情報処理や人工知能等 AI 応用科目、データベースⅠ・Ⅱ等のデータエンジニアリング関連基盤科目の教育を行い、将来の進路に即した専門性が身に付けられるように編成しています。加えて、社会科学関連科目として、経済学入門や行政学、法社会学等の科目を配置し、文理融合のカリキュラムを編成します。

○DS 半導体コース

半導体製造プロセスを俯瞰することができる設計工程から前工程・後工程、さらには各工程における品質管理に関する基礎知識を体系的に教育するとともに、データサイエンスの視点から半導体製造分野で活躍するために必要な専門科目を編成します。具体的には、回路開発の標準的ソフトウェア環境や、実際の半導体製造プロセスを模した実験・実習科目、熊本地域の半導体関係企業・半導体製造関係企業でのインターンシップ等を含めた実践力を涵養する教育プログラムを提供します。

体系性：教養教育に加えて、数学、統計学、情報科学などの基礎科目群と専門科目群をもうけ、データサイエンス的素養が身に付くように編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するように編成しています。1 年次の全学生共通の基盤科目として、データサイエンス (DS) 入門や DS リテラシー、プレゼンテーション実習等の科目を編成し、データサイエンスを含めた基礎的知識の涵養を目指します。

個別化（進路への対応）：確率・統計等の数理基礎科目、アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ等のプログラミング教育科目、データ分析Ⅰ・Ⅱ等データ収集分析関係科目、コンピュータネットワーク・情報セキュリティ関係科目、さらにはメディア情報処理や人工知能等 AI 応用科目、データベースⅠ・Ⅱ等のデータエンジニアリング関連基盤科目の教育を行い、将来の進路に即した専門性が身に付けられるように編成しています。さらに、特に本コースでは、半導体基礎から論理回路、電気回路、半導体工学、半導体製造技術等、半導体の知識を修得できる科目を編成しています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：Web サイト)

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/3619ok/26gakkanR6-2023-11-07.pdf>)

(概要)
データサイエンスの応用領域は自然科学のみならず人文社会分野にも幅広く関連してくることから文理融合型の視点が必要とされます。理系文系を問わず、グローバルな視野を持つデータサイエンティストや技術者、研究者を目指す次のような人を求めています。
1. 人間の幸福や人間と環境の融和に対して問題意識を持ち、新時代のデータ駆動型イノベーションの創造に強い意欲を持つ人
2. 国際的な視野と優れた表現力やコミュニケーション能力を身に付け、リーダーシップと行動力を発揮するデータサイエンティストや技術者、研究者を目指す人
3. 課題に対して問題点を明確にし、計画的に問題解決を目指すことができる人
4. 文理を問わず幅広い教養の上に数理・データサイエンス・AI の専門知識を身に付け、それらの実社会への応用に興味を持ち、総合的な視点から広く社会に貢献しようと考えている人
5. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、その上で数学と英語の科目において特に優れた力を有する人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：Web サイト
https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/kyoiku_soshiki

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	8 人	－					8 人
大学院教育学研究科	－	21 人	26 人	2 人	0 人	0 人	49 人
大学院人文社会科学部	－	50 人	64 人	4 人	1 人	1 人	120 人
大学院先端科学研究部	－	78 人	66 人	2 人	31 人	0 人	177 人
大学院生命科学研究部	－	69 人	40 人	18 人	86 人	0 人	213 人
大学院 計	－	218 人	196 人	26 人	118 人	1 人	559 人
附属病院	－	11 人	5 人	23 人	63 人	0 人	102 人
附属研究所	－	18 人	13 人	4 人	12 人	0 人	47 人
その他	－	34 人	28 人	4 人	12 人	0 人	78 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0 人			486 人				486 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：Web サイト https://researchers.kumamoto-u.ac.jp/kr/kr.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
熊本大学は、日本及び世界において広く活躍できる、倫理観・教養・専門性を備えた人材を育成・輩出することを目指す。そのために、卓越した高等教育の推進に絶えず努力することを決意し、FD 憲章を定め、その憲章に基づき FD 活動を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員	入学者数	b/a	収容定員	在学生数	d/c	編入学	編入学

	(a)	(b)		(c)	(d)		定員	者数
文学部	170 人	176 人	103.5%	700 人	759 人	108.4%	10 人	1 人
教育学部	220 人	237 人	107.7%	1110 人	965 人	86.9%	0 人	0 人
法学部	200 人	204 人	102%	840 人	878 人	104.5%	10 人	0 人
理学部	190 人	205 人	107.9%	780 人	851 人	109.1%	0 人	0 人
医学部	253 人	257 人	101.6%	1,267 人	1317 人	103.9%	16 人	0 人
薬学部	90 人	91 人	101.1%	470 人	508 人	108.1%	0 人	0 人
工学部	473 人	488 人	103.2%	2,102 人	2318 人	110.3%	65 人	85 人
情報融合学環	60 人	67 人	111.7%	120 人	134 人	111.7%	0 人	0 人
合計	1,656 人	1,725 人	104.2%	7,389 人	7730 人	104.6%	101 人	86 人
(備考) 情報融合学環は 2024 年度新設のため、1、2 年次のみ在籍								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	181 人 (100%)	20 人 (11%)	144 人 (79.6%)	17 人 (9%)
教育学部	230 人 (100%)	22 人 (10%)	201 人 (87.4%)	7 人 (3%)
法学部	210 人 (100%)	23 人 (11%)	168 人 (80%)	19 人 (9%)
理学部	189 人 (100%)	111 人 (59%)	66 人 (34.9%)	12 人 (6%)
医学部	262 人 (100%)	13 人 (5%)	126 人 (48.1%)	123 人 (47%)
薬学部	85 人 (100%)	35 人 (41%)	50 人 (58.8%)	0 人 (0%)
工学部	536 人 (100%)	395 人 (74%)	130 人 (24.3%)	11 人 (2%)
合計	1,693 人 (100%)	619 人 (37%)	885 人 (52.3%)	189 人 (11%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakuseikatsu/careersupport/shuusyoku_data				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	185 人 (100%)	149 人 (80.5%)	31 人 (16.8%)	4 人 (2.2%)	1 人 (0.5%)

教育学部	241 人 (100%)	214 人 (88.8%)	22 人 (9.1%)	5 人 (2.3%)	0 人 (0.0%)
法学部	215 人 (100%)	187 人 (87.0%)	24 人 (11.2%)	3 人 (1.4%)	1 人 (0.5%)
理学部	200 人 (100%)	152 人 (76.0%)	37 人 (18.5%)	11 人 (5.5%)	0 人 (0.0%)
医学部	116 人 (100%)	95 人 (81.9%)	21 人 (18.1%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
医学科					
医学部 保健学科	145 人 (100%)	127 人 (87.6%)	15 人 (10.3%)	3 人 (2.1%)	0 人 (0.0%)
薬学部	59 人 (100%)	50 人 (84.7%)	8 人 (13.6%)	1 人 (1.7%)	0 人 (0.0%)
薬学科					
薬学部 創薬・生命薬科学科	35 人 (100%)	30 人 (85.7%)	5 人 (14.3%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
工学部	518 人 (100%)	425 人 (82.0%)	75 人 (14.5%)	18 人 (3.5%)	0 人 (0.0%)
合計	1,714 人 (100%)	1,429 人 (83.4%)	238 人 (13.9%)	45 人 (2.6%)	2 人 (0.1%)
(備考) 令和6年度実績。 編入学生、転部・転科生、除籍者、入学後1ヶ月以内の退学者は含まない。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) - 授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等を入力でき、Learning Management System(LMS)とも連動するシラバスシステムを構築し、授業計画を前年度末までに作成、4月から公表している。 - 各部局において、「学生が見て分かりやすいか」を念頭に、「授業の目的」、「到達目標」、「各回の授業内容と事前・事後学修」に主眼をおいたシラバスチェックを行い、全学のFD委員会に実施報告書を提出することとしており、前年度のチェック結果を翌年度のシラバス作成に反映させることで、継続的なシラバスの改善に努め、本学の教育の質の向上に資している。 ○各学部の授業科目のシラバス一覧 https://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

○厳格で適正な成績評価

以下のとおり定め、学内外からアクセス可能な Web サイトにて公表している。

- ・厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken>

特に、成績評価の区分及び公表については以下のとおり（一部抜粋）

◆成績評価の区分

(1) 成績評価は、学生の授業における学修目標に応じ、以下の表に示す 5 段階による評価区分にて表示する。ただし、授業形態（演習・実習等）、科目の特性（インターンシップ等）などにより 5 段階評価が困難な場合には、柔軟な評価区分を行うことができるものとする（例：合格・不合格）。

合格	秀	100 点～90 点	学生が授業内容を超えて、より主体的に学修したことが認められる卓越したレベル
----	---	------------	---------------------------------------

		優	89 点～80 点	学生が授業内容の学修を終えた時に身に付けていることが期待される知識・技能等（学修目標 A 水準）を十分に修得したことが認められるレベル
		良	79 点～70 点	学修目標 C 水準を十分に上回っているが、学修目標 A 水準への到達に向けてさらなる努力を必要とするレベル
		可	69 点～60 点	学生が授業内容の学修を終えた時に最低限身に付けていることが必要な知識・技能等（学修目標 C 水準）を修得したことが認められるレベル
	不合格	不可	59 点～ 0 点	学生が授業内容の学修を終えた時に最低限身に付けていることが必要な知識・技能等（学修目標 C 水準）を修得したことが認められないレベル

(2) 秀・優・良・可の区分については、成績分布の著しい偏在に留意するものとする。
特に秀・優については合わせて 30%以内を目安とし、厳格で客観的・公正な成績評価に努めるものとする。

(3) 共通科目・同一名称科目（語学・理系基礎科目等）の成績評価の基準・方法については、担当教員間で十分に協議をして設定するものとする。

(4) 各学部等（大学教育統括管理運営機構を含む。）において成績評価の区分を別に定める場合には、学生に対してあらかじめ明示の上、その定めによるものとする。

◆成績評価方法の公表

(1) 成績評価の基準・方法については、年度当初に授業計画書で公表するものとする。

(2) 期末試験だけによる評価でなく、小テスト、レポート、ディスカッション、授業への参加度等も含めた総合評価に努め、評価要素ごとに評価割合を明示する（例：試験 80%、ディスカッション 20%）。

○GPA の算定

学内外からアクセス可能な以下の Web サイトにて、GPA の算定について公表している。

- ・熊本大学における GPA 制度について
<http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/activity/images/GPA.pdf>
- ・全学共通の GPA の算定方法を定め、当該方法に従って算出した GPA を学修成果可視化システムにより学生、教員が把握できる仕組みを構築している。
- ・全学の FD 委員会において、学期毎に成績の分布状況の分析を行い、各学部分析結果をフィードバックしている。

○卒業の認定

以下のとおり、全学及び各学部における卒業の認定に関する方針を定め、学内外からアクセス可能な Web サイトで公表し、適切に実施している。

- ・卒業の認定に関する方針
<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum>
- 熊本大学の教育目標に鑑み、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身に付けた者に学士の学位を授与します。
- ・深い教養と高い専門性を基に我が国や国際社会の発展に貢献（寄与）するための論理的な思考ができる。
 - ・多様な文化や価値観を持った人々と知性的なコミュニケーションを取ることができる。
 - ・社会情勢の変化を理性的に察知し、社会の抱える課題解決に自らの専門力を応用できる。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	総合人間学科	1 2 4 単位	有・無	単位
	歴史学科	1 2 4 単位	有・無	単位
	文学科	1 2 4 単位	有・無	単位
	コミュニケーション情報学科	1 2 4 単位	有・無	単位
教育学部	学校教育教員養成課程	1 2 5 単位	有・無	単位
法学部	法学科	1 2 6 単位	有・無	単位
理学部	理学科	1 2 4 単位	有・無	単位
医学部	医学科	2 0 8 . 0 単位	有・無	単位
	医学科 熊本みらい医療コース	2 3 5 . 0 単位	有・無	単位
	保健学科 看護学専攻	1 2 7 単位	有・無	単位
	保健学科 放射線技術科学専攻	1 2 8 単位	有・無	単位
	保健学科 検査技術科学専攻	1 4 7 単位	有・無	単位
薬学部	薬学科	1 8 7 単位	有・無	単位
	創薬・生命薬科学科	1 2 5 単位	有・無	単位
工学部	土木建築学科 土木工学教育プログラム	1 3 0 単位	有・無	単位
	土木建築学科 地域デザイン教育プログラム	1 3 0 単位	有・無	単位
	土木建築学科 建築学教育プログラム	1 2 6 単位	有・無	単位
	機械数理工学科 機械工学教育プログラム	1 2 5 単位	有・無	単位
	機械数理工学科 機械システム教育プログラム	1 2 5 単位	有・無	単位
	機械数理工学科 数理工学教育プログラム	1 2 7 単位	有・無	単位
	情報電気工学科 電気工学教育プログラム	1 2 6 単位	有・無	単位
	情報電気工学科 電子工学教育プログラム	1 2 6 単位	有・無	単位
	情報電気工学科 情報工学教育プログラム	1 2 8 単位	有・無	単位
	材料・応用化学科 応用生命化学教育プログラム	1 2 6 単位	有・無	単位
	材料・応用化学科 応用物質化学教育プログラム	1 2 6 単位	有・無	単位
	材料・応用化学科 物質材料工学教育プログラム	1 2 9 単位	有・無	単位
	半導体デバイス工学課程	1 2 6 単位	有・無	単位
情報融合学環	DS 総合コース	1 2 4 単位	有・無	単位
	DS 半導体コース	1 2 4 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：Web サイト http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/activity/images/GPA.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：Web サイト https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakuseikatsu/ https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/data		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：Web サイト

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kyoikujyoho>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部・学科共通		535,800 円	282,000 円	－円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

本学では学部新入生に対して、学部・学科等ごとに、教育課程、学生生活全般に関してのガイダンスを実施している。また、2 年次生以上にも年度当初に学部・学科等ごとに履修に関するガイダンスやコース選択のためのガイダンスを実施している。さらに「学長と学生代表との懇談会」の実施、学生相談窓口及び学生生活実態調査等を通じて学習支援に関する学生のニーズの把握に努めている。

修学においては、各種の様々なシステムを利用できる環境を整えている。利用するシステムは以下のとおりである。

1. 熊本大学ポータル（統合認証対応システム）の利用

- ・学務情報システム SOSEKI（学籍管理、履修管理、成績管理、等）
- ・シラバスシステム（学修目標、授業内容、授業の工程表など）
- ・スケジュール・掲示板システム（休講補講連絡、各種のお知らせ）
- ・全学 LMS（e-Learning System）Moodle（PC・スマートフォン利用で、講義資料閲覧、アンケート、小テスト、レポート提出、連絡、掲示等の機能）
- ・証明書発行システム（在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書など）
- ・授業改善のためのアンケートシステム（授業に対する意見の投稿）
- ・図書館システム（文献複写、図書貸借依頼など）
- ・学修成果可視化システム【e ポートフォリオシステム】（学修記録の確認）
- ・出席管理システム

2. 全学無線 LAN 環境（PC・スマートフォン等で大学のネットワークに接続可能）

3. PC 演習室の利用（各地区に設置）

さらに学習環境の整備として、附属図書館（中央館）では、学生への学習支援サービスを実効性のあるものとするため、ラーニングコモンズ（学生が自発的に集い学ぶための空間であり、自立的な学びにより新たな知を創出する場）を前面に押し出し、グループ学習、ライティングサポート、アクティブ、リフレッシュの各エリアを設置し、学生の自立的な学習の場を提供している。

また、従前から自習スペースの確保を行っており、各学部等に多目的エリア、自習室を設置している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

本学の就職・進路選択支援は主に事務組織である就職支援課が担当し、「自ら動き自ら学ぶ自分軸を持つ熊大生の育成」をテーマに様々な取組みを学部等と連携をとりながら進めている。

【主な取組】

① キャリア支援サイト・熊大就活ナビ KUMA★NAVI

就職活動を総合的に支援していくサイト。キャリア支援サイトには就職活動体験記等多彩な情報が UP されている。中でも「OB・OG キャリアメッセージ」は、約 1,000 名の卒業生がそれぞれの職場と仕事内容をリアルに紹介しており、メッセージ掲載者を招いての交流会の実施や、キャリア教育の教材として活用している。また、「熊大就活ナビ KUMA

★NAVI」では、本格的に就職活動を開始する学部3年生、修士1年生向けに、個別の就職相談・ガイダンス予約、学内就職イベント情報や求人情報を提供している。 ② OwnWorkNote プロジェクト 就活を終えた学部4年生達を組織化し、学部3年生に自分たちが身につけた就活の知識や、ノウハウ等を伝えるミニ講座等を学生主導で実施している。 ③ 就職準備講座 就活準備につながる基礎講座。自己分析やエントリーシートの作成解説、人事担当者による面接指導等を組み合わせた実践的な内容が学生に好評である。また公務員や教員試験対策講座なども、大学生協との共催で実施している。 ④ 模擬 WEB 面接講座 採用活動のオンライン化に対応した、WEB 面接を中心とした模擬面接講座。就活本番前に自分の強みや課題を見つけておくことで、本選考に備えることを目的としている。 ⑤ 業界研究講座・企業説明会 日本を代表する大手企業による、産業界を幅広く理解するための業界研究講座や、公務員関係も含めた熊本県内外の優良企業約 200 社が集う企業説明会を実施しており、効率的に業界、企業研究を行うことができる。 ⑥ 未内定者・既卒メルマガ 毎年6月頃から、未内定の学生や卒業・修了後も就職活動を継続している学生に向けて、追加求人情報をメルマガ形式で配信している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健センターでは、内科医及び看護師が「(一般)健康相談」として様々な身体の不調に対応し、精神科医師、臨床心理士、公認心理師及びキャンパスソーシャルワーカー (CSW) が「こころの健康相談」として様々なメンタルヘルス相談に対応している。また、学生相談室では、CSW による「何でも相談」を受け付けている。 その他、全学的取組としては、学生の定期健康診断に際して疲労蓄積度調査を実施し、結果に応じて保健センターへの相談を促す取組を行っている。また、教職員と学生相談室 CSW、保健センターの精神科医、臨床心理士又は公認心理師とで、個別の学生への支援方法について話し合う、学生支援検討会 (所定の申込用紙あり) を随時受け付けている。 ○こころの健康相談 「対人関係がうまくいかない。」「何をしてもつまらない。」「落ち込んだ感じが続いている。」「進路で悩んでいる。」「研究がうまくいかない。」「恋愛のことで悩んでいる。」「家族のことで悩んでいる。」「眠れない。」「過呼吸。」「過食おう吐。」「性別に違和感がある。」「学校へ行けない。」等、様々な相談について、精神科医師及び臨床心理士が対応しており、プライバシーは厳守している。令和2年度からは、メールによる「こころの健康相談」の受付も行っており、保健センターCSW が対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：Web サイト ○熊本大学 Web サイト大学情報 https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou ○大学ポータルレート https://portraits.niad.ac.jp/
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F143110111295
学校名（〇〇大学 等）	熊本大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	国立大学法人熊本大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		723人（ ）人	724人（ ）人	1447人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	407人	402人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	171人	168人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	107人	105人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	38人	49人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（ ）人
合計（年間）				1454人（ ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	23人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	一人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	20人	人	人
計	44人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	一人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	15人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	一人	人	人
GPA等が下位4分の1	59人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	60人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。